

平成30年度射水市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員会会議録

1 日 時 平成30年11月20日（火）午後1時30分～午後3時00分

2 場 所 射水市役所 会議室401

3 出席者

(1) 推進委員会委員 14名

成瀬会長、新鞍副会長、竹内委員、高委員、中川委員、石灰委員、川口委員、能登委員、新中委員、岡田委員、寺越委員、長慶委員、砂原委員、武部委員

(2) 事務局 14名

倉敷福祉保健部長、小見福祉保健部次長、糸岡地域福祉課長、三島介護保険課長、轟保健センター所長、松島市民病院看護部長、政岡地域福祉課課長補佐、佐野地域福祉課課長補佐、宮本地域福祉課地域支援係長、稲垣介護保険課介護保険管理係長、森山介護保険課認定係長、堀岡介護保険課主査、池田地域福祉課主任、吉田介護保険課主事

4 欠席者 2名（矢野委員、稲垣委員）

[会議次第]

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 第6期介護保険事業計画期間における高齢者人口及び要介護認定者数の推移について 資料1

(2) 射水市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画の実施状況について

ア 健康で生きがいを持ち高齢者が活躍できるまちをつくる

イ 自分らしさや尊厳を保ち高齢者にやさしいまちをつくる

ウ 住み慣れた地域で暮らし高齢者が安心できるまちをつくる

(ア) 基本施策（1）、（2）、（3）、（4）の実施状況

(イ) 基本施策（5）の実施状況 資料2・3

(3) 第6期介護保険事業計画期間における介護保険事業のサービス利用量の実績について 資料4

4 閉会

[会議録]

事務局 【議題(1)「第6期介護保険事業計画期間における高齢者人口及び要介護認定者数の推移」資料1 説明】

委員 要介護等認定者数の推移で、要介護4の認定者数が3年とも実績が計画を上回っているのは、どうしてか。

※平成27年 実績 688人 計画 646人 平成28年 実績 698人 計画 665人
平成29年 実績 731人 計画 697人

事務局 第5期計画の実績を見て、第6期計画の認定者数の推移を算出しているが、結果として、要介護4の認定者数は、計画の人数より実績が伸びたことになった。

事務局 第6期計画の計画値は、第5期の推移を勘案したあくまで推計値であり、本日の会議は、平成27年から29年までの3か年（各年10月1日現在）の推移を検証する場と位置づけている。

委員 「小杉南部生活圏域・大門生活圏域において、要介護3・4が計画よりも実績の方が多いののは、介護老人福祉施設やサービス付き高齢者向け住宅に住所を異動することによるものと考えられる。」とあるが、どうしてこの圏域だけ要介護3・4が計画よりも実績の方が多くなるのか。

事務局 はっきりとしたことは分からないが、エスポワールこすぎ、太閤の杜、こぶし園等の圏域内にある特養等に住民票を異動している方が、他の圏域に比べて若干多いように思われる。

会長 単に実績が多かったという事実がある、ということでもいいと思う。

事務局 【議題(2)「射水市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画の実施状況について ア 健康で生きがいを持ち高齢者が活躍できるまちをつくる」資料2 説明】

会長 シルバー人材センター登録者数が減少しているのは、雇用延長により若い登録者が減っているということか。

事務局 ご指摘のとおりである。

会 長 「シルバー」と呼ばれることへの嫌悪感もあると思う。

委 員 シルバー人材センターの賃金だけでは収入にならない、ということもあるのではないか。

事務局 シルバー人材センターでは、登録者獲得のための説明会やPRを行うなど様々な努力を重ねている。

委 員 老人クラブ数が減っているが、老人クラブ活動に魅力がないのか。射水市老人クラブ連合会の役員をしていることもあり、老人クラブに加入する人を増やしていきたいと思っている。

事務局 老人クラブの様々な行事に参加するのが大変である、という声を聞く。

委 員 行事を減らしていくことを考えないといけない。来年度に向けて、市と協議したいと思っている。

事務局 ぜひ協議させていただきたい。

会 長 高齢者の生きがいがいづくりと社会参加の実施状況として、示すことができる意味あるものがこの2つ（老人クラブ等への支援・シルバー人材センターの運営支援）ということか。

事務局 この2つの指標だけで高齢者の生きがいがいづくりと社会参加の実施状況を測れるとは思っていない。第7期計画では、高齢者の学び直し（リカレント教育）への支援等の項目を掲げている。

事務局 【議題(2)「イ 自分らしさや尊厳を保ち高齢者にやさしいまちをつくる」
資料2 説明】

会 長 この3年間の高齢者の虐待事例を把握しているのか。把握できるシステムになっているのか。

事務局 地域包括支援センターで相談を受けた分は市に報告が来ている。平成29年度は、40件の相談があった。

会 長 40件の相談というのは、高齢者虐待防止の色々な施策をしているから相談につながった、ということか。

事務局 地域包括支援センターが地域になじんできており、地域やケアマネジャー、事業者から虐待の兆候が見られるといった相談のケースが多くなっている。

委員 軽度の認知症の発見やその対応は難しい。認知症サポーター制度を活用して軽度の認知症が疑われる方の家を訪問して相談に応じるといったシステムのようなものはできているのか。

事務局 そのようなシステムはできていない。

委員 認知症サポーターは、誰もが講座を受講できて、たくさんの人にサポーターになってもらわないといけないと思う。資料の中で「認知症の者」という表現があるが、「認知症の方」とすべきだと思う。

事務局 【議題(2)「ウ 住み慣れた地域で暮らし高齢者が安心できるまちをつくる (ア) 基本施策 (1)、(2)、(3)、(4) の実施状況」資料2 説明】

委員 資料2の4ページ「6 在宅医療・介護サービス等の情報共有支援」の中で、情報共有ツールとあるが、具体的にどのようなものか。

事務局 包括間での情報共有・繋がり、セキュリティの関係上難しいが、ICTツールとして、患者情報を医者やケアマネジャー、介護事業所等がラインのようなグループで共有できるようなシステムの導入を検討している。

委員 包括のLANと繋がれないと意味がないのではないか。

事務局 同じアプリが使えるように機器を整備するなど、情報共有する関係機関の負担やランニングコストを少なくして、多くの機関が参加できるように、来年度の対応を検討していきたい。

委員 ラインみたいなものは、包括のパソコンでも使えるイメージでよいか。

事務局 パソコンにソフトをインストールすれば使えるようになる。

会長 地域包括支援センター機能強化と地域包括ケアシステムの取り組みの推進が不十分だと、こういった問題が起こるのか。

事務局 不十分だと、医療費も上がるし、介護保険給付も上がるから介護保険料も上が

ることになる。これから団塊の世代が後期高齢者になっていくが、後期高齢者の要介護認定率は、前期高齢者よりかなり高いので、その分医療費や介護給付が多くなってしまう。介護保険制度が維持できるように、高齢者自身が健康でいられるように、健康でいられることが一番幸せであるので、包括ケアシステムを進めている。

会 長 ある種の目標値が必要ではないか。「あれをやった」、「これをやった」だけでは評価のしようがない。

事務局 今回は、第6期計画の総括である。第7期計画では、「認知症の者」から「認知症高齢者等」にやさしい表現に改めたり、様々な目標値も示している。総合的な検証については、議会からも検証の在り方を求められているので、検討していきたい。

委 員 情報共有ツールは、射水市独自のものか。

事務局 射水市独自のものである。

事務局 【議題(2)「(イ) 基本施策(5)の実施状況」資料3 説明】

会 長 整備における定員数確保の目標はあったのか。

事務局 第6期計画において、小規模多機能型居宅介護で1事業所25名、認知症対応型共同生活介護で1事業所9名、地域密着型介護老人福祉施設で1事業所29名の目標を定めた。

会 長 定員数の目標を達成できたものと達成できなかったものがあるということか。

事務局 目標を達成できたのは、小規模多機能型居宅介護だけになる。

事務局 【議題(3)「第6期介護保険事業計画期間における介護保険事業のサービス利用量の実績」資料4 説明】

会 長 介護サービスは、需要に対応する形で給付を対応しているということでしょうか。

事務局 第5期の推移から計画を立てており、計画に沿った実績を示している。

会 長 第6期の実績において、想定外のものはあったのか。

事務局 地域密着型サービスでいうと、①定期巡回・随時対応型訪問介護看護が大きく伸びたので、②夜間対応型訪問介護が反比例して減少傾向にある。

会 長 全体を通して何か意見があるか。(意見なし)